

第3回 和光市立小・中学校の適正配置・適正規模等検討委員会 会議録（要点）

平成21年8月 7日

14:30～16:20

和光市役所503会議室

出席委員15名 欠席委員4名

教育委員会出席者

大久保教育長

田中教育部長

西学校教育課課長補佐兼指導主事

協議 （◆：委員の主な発言 ⇒：事務局の回答の概要）

◆市長は大和中学校と和光高校の用地交換を考えているようだが、この話の経緯について伺いたい。

⇒確かに市長のマニフェストの中にそういった考えはある。しかし、教育委員会としてこの案について論議をしたことはない。県との話し合いの結果は、後日市長から発表があるものと考えている。

◆資料2ページ上段部分を確認していただきたい。和光市の場合、学区域についてもあまり遠距離にならないようにしていく。また、設置についても、小・中学校両方の学校種で進めていく。新設校の設置については、現状の通学区域を前提として話を進めるが、小中一貫校の設置については検討が必要であるということで確認しておきたい。

◆本日はまず、市内小規模校の課題について、資料9ページを基に考えたい。この資料はあくまでも見込みだが、白子小と本町小では著しい児童数の差がある。本町小の学校規模はこのままでよいのだろうか。

◆児童数の少ない学校はその学校なりの大変さがある。県からの職員配置数が他校より少ないので、学校運営も一層の工夫を求められる。地理的に見ても本町小や北原小は通学区域を広げること難しい。すぐによい方策は思いつかないが、何か手がうてるとよい。

◆学校職員の仕事は学校規模が大きくても小さくても同じである。校務分掌ひとつをとっても、規模の小さい学校の職員はいくつもの分掌を持たざるをえない。学校の中でしかわからない苦労もあるのではないだろうか。すぐに対応できる問題ではないが、将来的には、適正規模にできるよう考える必要がある。この検討委員会では無理だが、新設校が設置された際には、次の検討課題となるだろう。

◆北原小の児童数は若干の増加が予想されるが、本町小は何かしらのアクションを起こさなければ増加は難しい。近隣市でも、学校の統廃合は行っている。市内の学校配置を考えると、小学校が近すぎる地域がある。仮に本町小を廃校とした場合には、近隣3校に児童が分散していく

ことになるだろう。このような状況になると、本町小の学校文化が受け継がれることがなくなってしまう。本町小には卒業生も大勢いる。これまでの話し合いを振り返ってみると、市の南側にある小学校を統廃合する案も考えられるが、十分な配慮をお願いしたい。

⇒学校は地域の文化の拠点である。安易な統廃合は考えてはいけない。市民の皆様には十分知恵を貸していただきながら、今後、検討していくことでまとめていただきたい。

◆続いて、小・中学校建設の優先度について話し合いたい。小・中学校同時建設が理想だが、なかなかそうはいかないだろう。小学校が優先されるべきと考えるが、どうだろうか。

◆小・中学校同時開校は難しいのではないかと。小学校が優先されると思う。

◆優先順位としては小学校だろうが、中学校は後から建設しますというわけにもいかない。建設するならば、中学校も同時に考えたい。

◆同時に計画することは必要だ。しかし、同時開校は難しいのではないかと。

◆中学校を優先するべきと考える。通学区域が広すぎると生徒指導上の問題も多い。かつて、大規模校での勤務を経験したが、1学年が200人を超えると校外行事の実施も難しくなる。1学年は140人～150人が適正であろう。大和中の生徒数を考えると、現在も指導が難しいことが想像される。中学校の建設を優先するべきだろう。

◆中学校の設置も重要だが、大和中は現在校舎増築中である。新校舎には、1年生の教室を配置することを計画している。新しい中学校を設置してほしいとは思いますが、小学校との関係もあるので難しいのではないかと。

◆和光市駅北口の区画整理が進行すると、高層住宅の建築も想定される。今後のことを考えると小・中学校とも必要であろう。

◆優先順位はつけられないようだ。計画の段階で、小・中学校共に設置の方向で進めることがよいだろう。

◆5年後には白子小は900人を超える児童数が想定されている。教室数は不足しないのか。

⇒余裕教室はほとんどなくなると考えている。

◆児童ひとりあたりの保有面積は今以上に小さくなってしまう。

⇒学校設置基準上は問題がないが、第四小と比較すると格差が一層広がってしまう。

◆やはり、小学校の優先度が高いだろう。現在、学校選択制を実施しているため、中学校は大和中の生徒数増加に多少対応できる部分がある。しかし、計画の段階では小・中学校同時に進めてほしい。

◆それでは、小学校の設置を優先するが、計画の段階で同時進行させ、大幅なずれがないように小・中学校を設置するということがほしい。

◆次に、徒歩以外の通学方法について検討したい。

◆かつて、第二中は自転車通学を認めていたようだが、教育委員会として承認をしていたのか。

⇒教育委員会として承認したことはない。学校長の裁量の範囲での対応だったと考えている。

◆バスや自転車での通学は交通不便地だけが検討することではないだろう。和光市として通学方法として適切かどうかを考えて、市の実情に合わなければ手立てとして考えなければよい。バ

ス通学は児童生徒の安全面を考慮して検討すればよい。

- ◆現在、中学校では部活のみ自転車の使用を特例として認めている。市の道路は十分整備されているとはいいいにくい。自転車通学を承認すると、重大な事故が発生する可能性を捨てきれない。学校の指導だけでは、対応できない問題がある。
- ◆学校新設の考え方の中には、遠距離通学を解消するという側面も含まれている。学校を整備していく視点で考え、問題を解決したい。
- ◆新設校が設置されても、第四小と第五小の通学距離の問題は解消されない。学校新設を検討するにしても、市の南側にはそれだけの場所もないだろう。交通量の多い幹線道路もある。第四小と第五小は通学区域の変更も難しい。
- ◆通学路の整備は市内どこの学校でも問題がある。別に対応が必要だろう。
⇒第四小の1年生の中には40分くらいかけて通学している児童もいる。この方々には、選択制を実施して広沢小に入学できるようには対応している。しかし、第五小の学区域は東西に長い。市全体を見渡すと不公平感が残ることは否めない。
- ◆適正な学区域については、本委員会で検討する内容だろうか。
- ◆新設校を設置する場合、自転車通学をしなくてもよいように学校の配置を考えたい。
- ◆小学生でも40分くらいの通学時間は問題ないだろうが、安全の確保は必要だろう。第五小の通学区域も白子小と同じように課題がある。
- ◆通学路の問題は適正な学区域の問題と重なっている。通学距離が長いからという理由で、自転車やバスの利用を考えるなら、学校の適正配置で対応するべきだろう。現状の通学方法を変える必要があるということではないか。
- ◆解決できない問題もあるのではないか。白子小や新倉小の問題だけでなく、市の南側の学校の問題も考えたい。
- ◆新設校ができた時点で通学区域については見直しをしていく必要があるだろう。徒歩で安心・安全に通学できるように通学路も整備をしていくことが必要だろう。
- ◆都市部で自転車やバスでの通学をさせざるを得ない状況は避けたいものだ。安全に通学できる環境の整備を進めたい。
- ◆大和中については学区域が広範囲である。生徒の安全の確保が十分できないのに策を講じないというのはいかがなものか。新設校ができる間、自転車やバスの利用を考えるべきではないか。
⇒設置基準上は通学距離は4 km以内とされているが、和光市では通学距離は2 km程度である。しかし、地区によっては狭隘な道路も多く、通学路については課題が多い。
- ◆小学校でも、徒歩で通学できる距離であり、通学路に関しては著しい問題はないのではないか。
- ◆通学路は距離だけの問題ではないだろう。安心・安全という面も大事な視点である。
- ◆一部の地域の方は、学校選択制の利用もできる。原則として、通学路の安心・安全を確保する手立ては引き続き講じていかなければならないが、徒歩通学が望ましいということでもとめたい。
⇒シュミレーションの3について確認していただきたい。シュミレーション1と2では、大和中

の生徒増に対応できない。しかし、シュミレーション3では、大和中の学校規模の適正化を図ることができる。新設校設置に際しては、このような学区域の設定をせざるを得ないということも理解していただきたい。また、正覚院通りの東側の地区を含めることも考えられる。中学校の設置に際しては、小学校の通学区域とは別に改めて通学区域の設定が必要となってくる。

◆小学校の通学区域の設定については、子ども会・育成会・自治会等地域の結びつきや活動を十分考慮してもらいたい。同じ地域の子どもたちは同じ学校に通学できることが一番だ。

◆新中学校の学区域についてはシュミレーション3、新小学校の学区域についてはシュミレーション2を案として新倉・下新倉地域に小・中学校ともに設置することでまとめた。自治会等の地域の結びつきについては配慮することにした。

⇒中学校については、シュミレーション3程度を想定して、市長にも報告していきたい。

◆谷中地区や駅北口、白子3丁目、新倉・下新倉地区は住宅開発等が盛んに行われ、人口も増えてきている。シュミレーション3も今後変更せざるを得ないかもしれない。できるだけ、先の見通しを立てて、進めていきたい。

⇒平成28年度以降の人口の推移は想定できない。あくまで、現時点での資料で考えざるを得ない。

◆現時点では、小学校はシュミレーション2、中学校はシュミレーション3で児童生徒数の推移が想定できる。答申に反映させたい。

◆新設校が設置されるまでの間、特に大和中の通学路の安全性を確保する必要があるのではないかと。

⇒現在も朝霞警察署、道路安全課、教育委員会が連携を図り、対応している。今後も、継続していく。

◆話し合いはこれまでとして、事務局で答申案をまとめてもらいたい。

(休憩)

◆答申案について確認していく。

(答申案について読み上げる)

◆適正な学校規模は通常学級数で考えられているので、この中に特別支援学級について明記しておく必要があるのではないかと。後日、誤解をまねかないためにも追記しておきたい。

⇒特別支援学級については市内の学校全てに設置されているわけではない。設置にあたっては、県の認可も必要である。プラスαの学級数として考慮したい。

◆付帯事項の部分に新設校が設置されるまでの対応としてサブグラウンドやサブ校舎の確保も含めてはどうか。

◆現状を認めていくと子どもたちが恵まれない環境で我慢していくことになってしまう。白子小の最大の問題は児童数の多さにある。学校施設は学校内になくてもよいと思う。

◆学校サイドからすればありがたい話である。しかし、現実的には難しい。

◆検討してほしい。

⇒給食室の増築に際して、この点についても検討してきた。教室数の確保だけでなくコンピュータ室を移動させるなどして、施設の確保も最大限図ってきた。

◆白子小で学ぶ子どもたちの負担を減らしていきたい。登下校についての安全性の確保だけでなく、施設についても今後検討していきたい。

⇒学校が新設され白子小の適正化が図られるまでは、可能な範囲で対応していきたい。

◆付帯事項の「教育指導」という文言は「教育活動」とし、より広い意味をもたせた方がよい。

◆通学路の確保については、学校長の意見を十分に聞き、道路や歩道の整備に努めていくことが必要である。

◆児童生徒の通学の安心・安全のための人員の対策も必要ではないか。

◆それでは、これまでの意見を反映させて事務局に答申を作成してもらおう。後日、委員の皆さんにはご覧いただくので、確認していただきたい。以上で、本委員会を終了とする。